

<白金標準、今年の 8500 円以下は買いの域・・・>



(出所：オアシス)

ケビン・ウォーシュ氏の初のFRB議長のFOMCでは、メンバーの半数が利上げを示唆しており、市場の思惑は7月のFOMCでは利上げ確率が50%まで上昇している。また米国とイランが60日間の停戦協議の覚書で合意できるも、イスラエルとヒズボラの報復攻撃が激化し、イランは合意文章の署名を延期している。そのため利上げ確率の高まりと、リスク逃避のドル買いに金価格の下落に追随し、一時8177円まで下値を試している。しかし今年の値動きは安値8662円、8478円で切り返す値動きを見せており、8500円～9500円の下値レンジが存在する値動きを続けている。特に今回は、8177円まで下値を試すなど、需給の供給不足の要因を打ち消す値動きを見せるなど弱気の織り込みであり、8177円は陰の極入りに思える。特に7月6日～10日は中国で上海プラチナウィークが開催される予定である。その中国は第15次五ヵ年計画によると、2030年末までに国内のグリーン水素産業を大幅に拡大することを目指しており、また急成長のAIのデータセンターなどでもプラチナ需要は11トンを超える需要に繋がる事など、ドル高リスク逃避から需給の供給不足を再認識する時間帯に移行すると思え、従来の8500円以下は強気のエントリーチャンスと思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが切り上げ、シグナルも切り下げている。RCIでは短期が切り上げ、長期は下げ止まっている。特に指数平滑移動平均線の短期が下げ渋っており、日足が8650円へ向けた戻りを見せて来ると思える。

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,320,000 円(2026 年 6 月 22 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 97,680 円(2026 年 6 月 22 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>